

拓殖
大学
長

後藤記念館を見学

3代学長の功績間に

拓殖大学の渡辺利夫総長はこのほど、水沢区大手町の後藤新記念館(高橋力館長)を訪問。開催中の企画展「一も人、二も人、三も人(後藤新平の人材育成)」を見学した。

後藤は1919(大正4)年から毎年の29(昭和4年)まで、同大学の第3代学長を務めている。さまざまな功績を残した後藤だ

が、人材育成の面での評価は高く「金を残して死ぬ者は下。仕事を残して死ぬ者は中。人を残して死ぬ者は上」と言い残したこともある。

名だ。

渡辺総長は見学後、胆江日新報社の取材に応じ「後藤が持つ人間的な魅力が、有能な人材を集め数々の事業

非常にたくさんの資料を目にすることができうる。

後藤新平が携わったプロジェクトはどれも大きなもので、彼一人では到底できるものではない。それでも成果を収められたのは、彼の周囲に集まつた人たちが、後藤の人間的魅力を感じていたからだと思う。「後藤がやる仕事だから、絶対にぶしてはならない」

「後藤のために、何か成功させたい」という思いを持っていたのではないか。



展示資料に熱心に見入る拓殖大の渡辺利夫総長

渡辺利夫(わたなべ・としお)氏

1939年、甲府市生まれ。慶應大学大学院経済研究博士課程修了。筑波大教授、東京工業大教授などを経て、2000年から拓殖大へ。国際開発学部長、国際協力学研究科委員長、学長などを歴任し、11年12月に総長就任(13年3月まで学長兼務)。1985年著「成長のアジア停滞のアジア」(東洋経済新報社)で吉野作造賞を受賞するなど、著者や論文も多数。

「人間的な魅力ある」

渡辺利夫総長

を成功に導いたので、は」と述べながら「今の指導者たちは、後藤ら当

時の指導者の立ち振舞いをもう一度振り返るべきだ」と訴えた。

また互いにやりとりすることもできる。が、当時はそれが困難だった。それゆえ、国際情勢的確にとらえ、判断する能力が一層重要だった。情報判断に狂いがあつてはいけないし、絶対に間違うことしかできないので、より思考力の深さが求められた。そのためにもよく勉強しなければいけなかった。そういう意味からも「人を創る」ことをテーマとした後藤の企画をしていただきたい。

企画展「一も人、二も人、三も人～後藤新平の人材育成～」が、後藤新平記念館(高橋力館長)で開かれている。後藤が生涯を通じて行った“人材育成”をテーマにした、4部構成の通年

企画。現在は第2弾として「新平と教育」にスポットを当て、特に國の将来を担う若者的人材育成に尽力した功績をたどっている。展示資料11項目のうち、一部を紹介する。7月18日まで。



「小松原英太郎 卒業生就職一覧表」。拓大2代学長・小松原英太郎が送った、第2回卒業生の就職先一覧。大坂商船、三井、台湾総督府などそうそうたる名が並び、エリート育成機関であったことがうかがえる

記念館で企画展



「拓殖大学卒業写真(昭和4年)」。恩賜記念講堂前で撮影された昭和4年3月の卒業記念写真。後藤はこの翌月、岡山へ向かう途中に京都で亡くなつた

後藤新平と教育



「實業之日本(明治43年1月1日号)」。「余は新人材を如斯して訓練す」と題する教育についての論文が掲載されている。当時遞信大臣であった後藤が、人をいかにして育てるか着目した論文だ

後藤新平記念館

- ▷ 住所…水沢区大手町4の1
- ▷ 電話…25・7870
- ▷ 開館時間…午前9時～午後4時半
- ▷ 休館日…月曜日、年末年始
- ▷ 入館料…200円(15人以上の団体100円)

後藤新平は数々の仕事を手掛けており、中でも都市計画や東京復興、ボイースポットなどを注目されることが多い。今回の企画展では、国の力となる若い人材技術者を育てる新平にスポットを当てた。人材育成にかかる新平の熱意や仕事ぶりを読み取ってもらいたい。

中村淑子学芸調査員(46)



後藤新平は数々の仕事を手掛けており、中でも都市計画や東京復興、ボイースポットなどを注目されることが多い。今回の企画展では、国の力となる若い人材技術者を育てる新平にスポットを当てた。人材育成にかかる新平の熱意や仕事ぶりを読み取ってもらいたい。